

2026年2月2日

先週は病院へ行ったら即入院となりまして、1週間ほど入院しましたけど、無事に退院して、今日からということでございます。皆さんにはご心配おかけしましたけど、この通り無事に出社しております。

気が付いたら、2月になっていて、もう明日節分ということで、入院していたからでしょうけど、非常に早く感じます。

節分といえば、恵方巻ということで、私が小さい頃は恵方巻なんてなかった、いやなかったわけじゃないんでしょうけど、目にはすることはありませんでした。節分というと豆まきくらいの印象しかなかったんですけど、30年ぐらい前ですかね、その辺から恵方巻というのが流行りだしたということでございまして、私も食べ始めたということです。

今年の恵方巻はちょっと注目しています。なぜかというと、やはりこの値上がりの中でどこまで行くんだろうということです。外側の海苔から米（コメ）、中の具材ですよね、これらは悉く上がっていますので、恵方巻全体としてはどこまで上がるんだろうというところに興味があります。

ステルス的に何かしてくるのか、例えば恵方巻の長さを短くしたりとか、具材を少な目にして少し細くしたりとか、そんなテクニックを使ってやるのか、そういうところですね。

で、恵方巻と言いますと、恵方を向いて食べるということでございまして、じゃあ今年の恵方はどこなのっていう時に、私はですね、スマホのアプリを起動させて、その恵方にスマホを向けると「シャリシャリシャリーン」と鳴って、華やかな画面が出てくるんですよ。

それだけなんですよ。それだけのアプリなんですが、しかも365日の中で1日しか使わないということなんですよね。皆さんから見たら非常にくだらないアプリなんでしょうけども、実は私、このアプリを15年間保有して、ずっと持ち続けております。

何故かというと、重宝するからなんです。

この「恵方はどこか」ということに対して、アプリを起動させて2秒か3秒でその自分から見た恵方が分かり、その恵方を指せるんです。これ、実はAIでは勝てないんです、今の段階では。

AIは方角、今年なら南南東のやや南、度数でいうと165度、ということは教えてくれるんですけど、私が立っているところからその方角がどちらなのか、ということはまだ言えないんですね。

もし、AIロボットというものが出来上がった時には、「今、恵方を指して」と言ったら、ピュッて

示してくれるかもしれないんですけど、まだ AI ロボットは普及してませんから、今の段階ではこのアプリの方が便利で勝っているということとして、重宝しているということです。

よく考えてみれば、この AI ができないこと、まだ AI に勝てているものっていうのは他に色々あるかもしれません。で、そういうのがあったら、実はすごく価値の高いことなんですね。

ですから、そういう AI ができないこと、AI に勝てるものを見つける、そして見つけたらそれを残す。価値があるものなので残すと。

AI がさらに進化する今年、そういうものを見つけていきたいなと思っております。

以上

代表取締役社長 角高哲治